



JFPAは5Aの実現を目指します!

- ① Adolescent 思春期保健の推進
- ② Abortion 人工妊娠中絶の防止
- ③ Access どこでも誰もがサービスを受けられる
- ④ Advocacy 啓発・提言活動
- ⑤ AIDS STD及びHIV/AIDSの予防

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

家族と健康

健康教育情報紙

一般社団法人 日本家族計画協会

リプロ・ヘルス推進事業本部

健康教育推進本部

協力：公益財団法人予防医学事業中央会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館

電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jfpa.or.jp

発行人：北村 邦夫 編集人：櫻田 忠宏 henshu@jfpa.or.jp

毎月1回1日発行 年購読料￥3000+税 1部￥300+税

今月のページ

IPPF・ESEAOR 地域会議開催	久留米市の母子保健対策	マタニティクラスで「仲間づくり」	海外情報クリップ	避妊教育ネットワークリレートーク⑤
平成26年度	妊娠期からの早期支援について、わが国の少子化問題と日本産科婦人科学会の使命	H.P.Vの感染経路／カップルの性生活満足度	HPVワクチンの効果／	HPVワクチンの効果／
4面	7面	6面	4～5面	3面
2面				



(4～5面)



(3面)

トピック

「がん教育」のあり方

文科省、検討会を設置

国民の2人に1人がかかると推測されている「がん」について、学校教育の中でどのように進めていくかを検討する「『がん教育』の在り方に関する検討会」の初会合が7月14日、文部科学省で開催された。

かかることから、文科省は「がん」について、学年別に「がん」の知識を教えることを検討する。この検討会では、「がん」の知識を教えることの重要性について、各学年別に検討される。

がんの知識を教えることの重要性について、各学年別に検討される。この検討会では、「がん」の知識を教えることの重要性について、各学年別に検討される。

がんの知識を教えることの重要性について、各学年別に検討される。

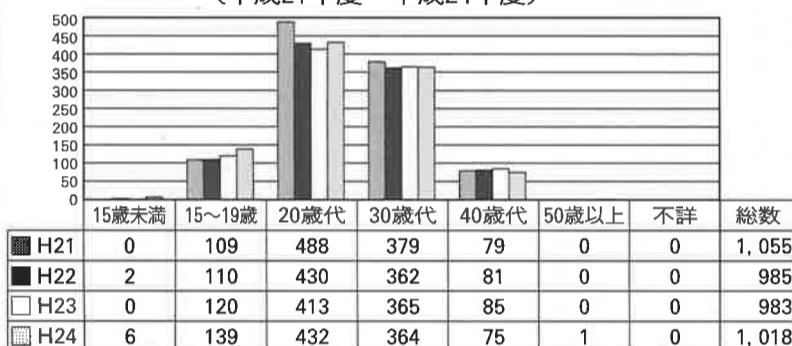
がんの知識を教えることの重要性について



保健師が母子健康手帳交付時に面接

表1 久留米市における妊娠届出受付件数および要支援者数
(平成22年度～平成24年度)

区分	保健所	受付件数		計	実件数	支援					
		市民センター	総合支所			電話	訪問	郵送	その他	延件数	
22年度	件数(件)	1,321	1,238	513	3,072	184	168	49	41	10	268
	割合(%)	43.0	38.7	16.7	100.0		62.7	18.3	15.3	3.7	100.0
23年度	件数(件)	1,266	1,109	534	2,909	190	142	54	27	43	266
	割合(%)	43.5	38.1	18.4	100.0		53.4	20.3	10.2	16.2	100.0
24年度	件数(件)	1,352	1,183	498	3,033	382	291	55	54	6	406
	割合(%)	44.6	39.0	16.4	100.0		71.7	13.5	13.3	1.5	100.0

図1 久留米市における人工妊娠中絶実施件数
(平成21年度～平成24年度)表2 妊娠ほっとライン相談件数および内訳
(平成24年7月～平成25年3月)

合計	相談件数		相談方法		相談者		
	新規	継続	電話	来所面接	メール	本人	本人以外
34	28	6	28	3	3	29	5
年齢区分							
15歳未満	15歳～18歳未満	18歳～20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不明
0	0	3	6	2	5	18	

相談内容(複数回答)

妊娠に関すること	避妊に関すること	思ひがけない妊娠	中絶に関すること	出産・養育に関すること	その他
23	11	1	2	4	4

処遇(対応)

情報提供	情報提供	来所相談案内	他機関紹介	緊急対応	地区担当保健師へのつなぎ	その他
22	20	3	0	1	2	0

今後の計画

産婦人科がパートナーに



授賞式でスピーチする小西氏

少子化問題と日本産科婦人科学会の使命

- (1)女性が健康で妊娠力を維持していること
一産婦人科が、若い女性のヘルスケアを担当
- (2)女性が安心して妊娠・出産できること
一産婦人科が、高レベルの周産期医療を提供
- (3)女性が妊娠しにくい場合はリカバリーできること
一産婦人科が、よりよい不妊治療を提供

スライド1

若い20~30歳代女性の健康が心配な状況!

- ・晚婚化・晚産化(通常の月経周期の繰り返しそのもの)
 - 子宮内膜症(1/10人)、子宮筋腫(1/5人)の増加
 - 月経困難症、性交痛、過多月経、貧血→QOL低下
 - 妊娠能の低下、不妊、卵巣がんの増加
- ・過剰なストレス、ダイエット、運動→月経不順、無月経
 - 低エストロゲン状態→骨粗鬆症の増加、早発閉経(女性アスリートの疲労骨折が注目されている!)
 - 月経前症候群(PMS)という病態も問題である!
 - 子宮内膜増殖症・子宮体がんの増加
- ・初交年齢の若年化、喫煙
 - 子宮頸がん・前がん病変の増加、若年化→頸部円錐切除
 - 早産リスクの増大→子宮摘出術の増加→妊娠能の喪失

スライド2

若い女性の健康が危機に

20~30歳代女性の健康問題(スライド2)について見ると、晚婚化・晚産化による子宮内膜症や子宮筋腫の増大、月経困難症、性交痛、過多月経、妊娠力の低下が非常に心配な状況です。他にもストレスやダイ

テクトによる月経不順、無月経、低エストロゲン、骨粗鬆症といった問題がみていますと、どんどん増殖しては分化していくのです。例えば子宮内膜などを見ると、晚婚化・晚産化によって、どんどん増殖しては分化していくのです。この「美しく」という言葉は、女性の「美しい」が激しく変化する」とあります。この「美しい」といふ言葉は、女性の「美しい」が激しく変化する」とあります。

産婦人科は非常に大きな学問体系を持ち、救急も含め、非常にやりがいのある素晴らしい診療科です。女性が生まれてから死ぬまで面倒を見ようとするのが産婦人科です。この「美しい」という言葉は、女性の「美しい」が激しく変化する」とあります。

産婦人科は非常に大きな学問体系を持ち、救急も含め、非常にやりがいのある素晴らしい診療科です。女性が生まれてから死ぬまで面倒を見ようとするのが産婦人科です。この「美しい」という言葉は、女性の「美しい」が激しく変化する」とあります。

産婦人科は非常に大きな学問体系を持ち、救急も含め、非常にやりがいのある素晴らしい診療科です。女性が生まれてから死ぬまで面倒を見ようとするのが産婦人科です。この「美しい」という言葉は、女性の「美しい」が激しく変化する」とあります。

産婦人科は非常に大きな学問体系を持ち、救急も含め、非常にやりがいのある素晴らしい診療科です。女性が生まれてから死ぬまで面倒を見ようとするのが産婦人科です。この「美しい」という言葉は、女性の「美しい」が激しく変化する」とあります。

小西 郁生

「松本賞」受賞に当たって

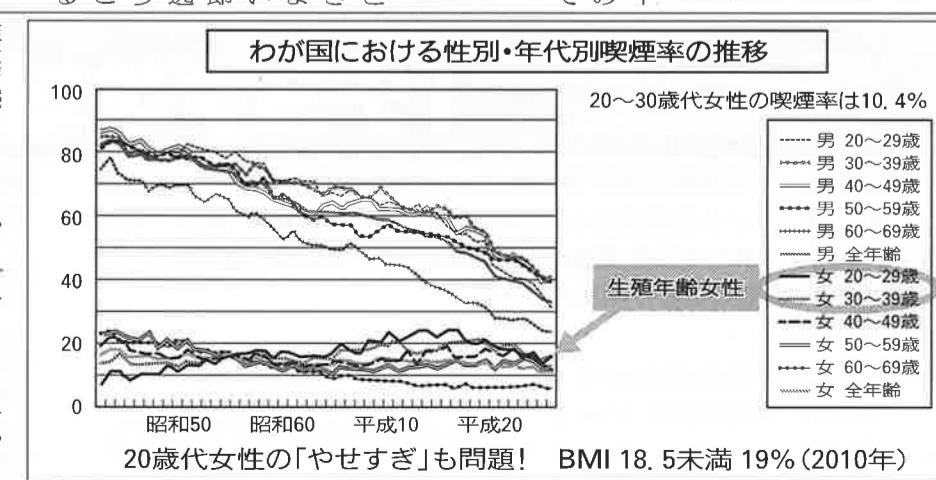
公益社団法人日本産科婦人科学会 理事長
京都大学大学院教授(医学研究科器官外科学講座婦人科学産科学分野)

小西 郁生

子宮頸がん予防が急務

子宮頸がんは、若い女性にシフトしてきています。今は20~30歳代の、骨粗鬆症といった問題がありますが、特に今は女性アスリートにおけるこの問題に、学会を挙げ取り組んでいます。さらに、月経前症候群といった非常に複雑な状況です。

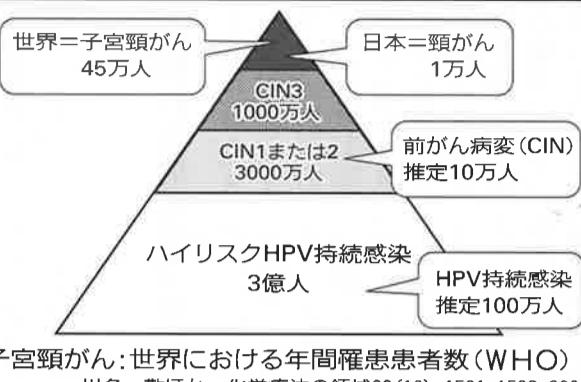
エットによる月経不順、無月経、低エストロゲン、骨粗鬆症といった問題がありますが、特に今は女性アスリートにおけるこの問題に、学会を挙げ取り組んでいます。さらに、月経前症候群といった非常に複雑な状況です。



スライド3

若い女性のヘルスケア

21世紀、ついにHPVワクチンが開発された！

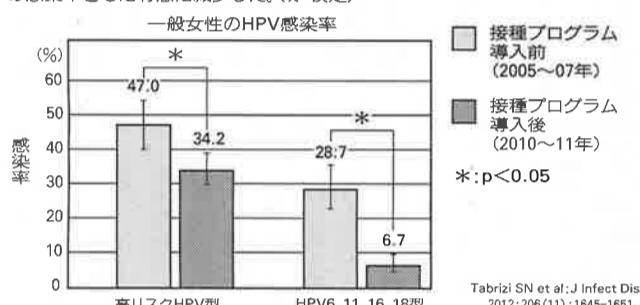


子宮頸がん：世界における年間罹患患者数(WHO)
川名 敏ほか 化学療法の領域22(10):1521-1528. 2006

スライド4

若い女性のHPV感染(検出)率が低下した！

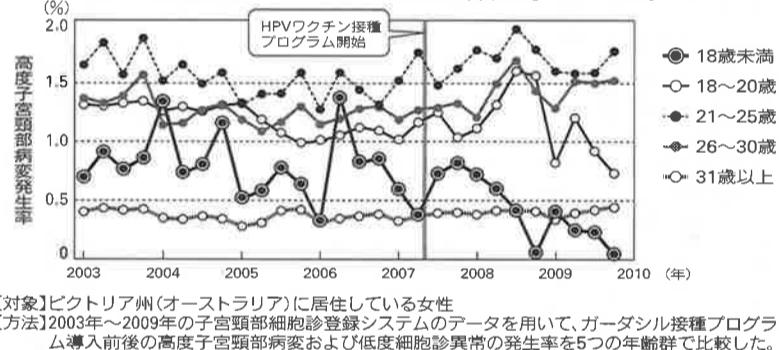
オーストラリアでは、小学校で集団接種を行っている
3大都市(パース、メルボルン、シドニー)で登録された18~24歳の一般女性において、接種プログラム導入後、高リスクHPV型の感染率、HPV6、11、16、18型の感染率ともに有意に減少した。(χ²検定)



スライド5

HPVワクチン接種開始後、CIN発症が減少！

オーストラリアでは、小学校で集団接種を行っている



【対象】ビクトリア州(オーストラリア)に居住している女性
【方法】2003年~2009年の子宮頸部細胞診登録システムのデータを用いて、ガーダシル接種プログラム導入前後の高度子宮頸部病変および低度細胞診異常の発生率を5つの年齢群で比較した。
Julia M L Brotherton et al., Lancet, 2011; 377:2085-2092. より改変

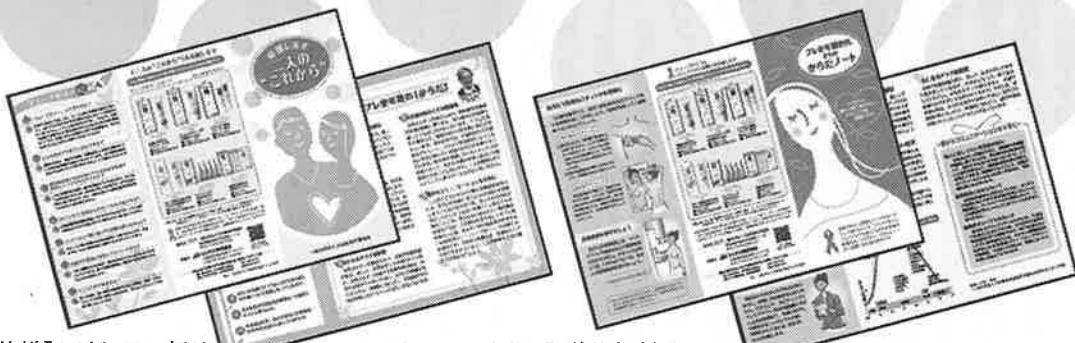
スライド6

総出生児数に対するART出生児の占める割合

西暦	ART出生児数	総出生児数	(%)	西暦	ART出生児数	総出生児数	(%)
93	3,554	1,188,282	0.30	04	18,168	1,110,721	1.64
94	4,576	1,238,328	0.40	05	19,112	1,062,530	1.80
95	5,687	1,187,064	0.48	06	19,587	1,092,674	1.79
96	7,410	1,206,555	0.61	07	19,595	1,089,818	1.80
97	9,211	1,191,665	0.77	08	21,704	1,091,156	1.99
98	11,119	1,203,147	0.92	09	26,680	1,070,035	2.49
99	11,929	1,177,669	1.01	10	28,945	1,071,304	2.70
00	12,274	1,190,547	1.03	11	32,426	1,050,806	3.09
01	13,158	1,170,662	1.12				
02	15,223	1,153,855	1.32				
03	17,400	1,123,610	1.55				
累積出生児数				303,806			
(吉村泰典教授最終講義スライドより)							

スライド7

啓発用リーフレット「応援します二人の“これから”」&
「フレ更年期世代からのからだノート」を無料でご提供いたします！



【仕様】A4判・三つ折り

リーフレット代・発送代無料！

こんな時にお使い下さい！

- ・健康相談・更年期教室などの参考資料として
- ・受付・チラシスタンプなどでの自由配布用として
- ・「女性の健康週間」などのイベント時の配布資料として etc.

下記URLより、見本と申込書がダウンロードできます！

※PDFがご覧になれない方は、日本家族計画協会までお問い合わせ下さい。
(TEL:03-3269-4727)

- 「応援します二人の“これから”」見本

<http://www.jfpa.or.jp/pdf/futari.pdf>

- 「フレ更年期世代からのからだノート」見本

<http://www.jfpa.or.jp/pdf/kounenki.pdf>

- リーフレット申込書

<http://www.jfpa.or.jp/pdf/moushikomi.pdf>

(2) 時代に入ったわけです。世界における子宮頸がんの年間罹患患者数(スライド4)は現在45万人、日本では1万人以上が発症しています。ピラミッドのような構造について、がん患者の下に前がん病変の方が10万人、さらにその下にHPV持続感染の方が100万人ぐらいいいるのです。

人、さらにその下にHPV持続感染の方が100万人ぐらいいいるのです。子宮頸がんの予防について、いろいろな議論がされている中で、検診やないかという意見もあ

ります。しかし今、21世紀のストラテジーとしては、ワクチンを利用することで、このピラミッドの頂上のがんがゼロになっていくといふ方向で進めていきたいと思っています。

オーストラリアでは、学校で90%以上の方がHPVワクチンの接種を受けています。そのことに限りません。慢性疼痛が起こることで、ワクチンに含まれる成分が起こしているものではない、というものです。

さらに、献血や採血などでも慢性疼痛が起る状態になることが分かったときも、きちんと回復することができます。

日本では、日本の妊娠婦死亡率はどんどん下がってきていました。私は自家分娩で生まれていますが、その当時の妊娠婦死亡率は、10万人当たり150人でした。今は10万人当たり4人であり、日本が世界で一番、妊娠婦死亡の少ない国の一いつとなっています。

アジアもまだ結構多いという状況です。米国もまだ日本よりも下がっていません。私は産婦人科にアセスできないというこ

とがあつて出生10万対12であります。日本やスウェーデン、オーストラリアなどがこの世界最高の周産期医療を行っています。

一方、妊娠していく場面にはリカバリーやできるだけ、先頭を行つたままです。日本では、妊娠しておらず出生10万対12であります。

</

海外情報クリップ

◆イングランドの研究

英国ではHPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンによる予防プログラムが2008年に導入されました。その後の予防効果を見るため、イングランドでは、2010～2012年におけるHPVワクチンによる予防プログラム導入前は16～18歳の女性の5人に1人の割合で陽性でした。が、今回の検査では15人に1人と、約3分の1に減少していました。

HPVワクチンの効果

—英国の検証—

クリーニングを受けた約4000人の若年女性の標本を検査しました。

その結果、ハイリスクHPVの16型と18型が、16～18歳の女性の5人に1人の割合で陽性でしたが、今回の検査では15人に1人と、約3分の1に減少していました。

この研究結果は、今年4月にリバプールで開催された英國微生物学会総会で発表され、英國イングランド公衆衛生サービスのマッシャー氏は「HPV予防プログラムは一概に効果を示していない」と述べています。

HPVワクチンを接種している若い女性や若年男性に対するHPVワクチンの効果を示しておらず、それでもいわゆる集団免疫によってHPVが減少していることが分かりました。

疫効果が出ていて、「うだ」と口々に言いました。

導入されたプログラムは12～13歳女子を対象に、18歳までのキャッチアップが提供され、全体の接種率は49%と高いものでした。

◆ウェールズの研究

ウェールズでは、2010～2012年に子宮頸がんスクリーニングを受けた女性全体を調査した結果、ワクチン接種を受けた女性に比べて、受けた女性の検査を受けいない女性の検査受診率は約半分、わいせつ行為の検査率もスクリーニングを受けている女性はワクチン接種率もスクリーニングを受ける率も相対的に高くなっています。

米国インディアナ大学の研究グループは、まず、18～29歳のバイセクショナルの女子大学生12人に対してもワクチン接種のバイアブレーラーおよびシリコン製のバイアブレーラーを、市販の洗浄用具とともに提供しました。

被験者の女性は2種類のバイアブレーラーをそれ別々の機会に、自分自身により壁内に使用し、その後と洗浄直後

の結果によれば、

HPVの型が異なる部位から検出されることがあります。

◆DNA検査による調査

ヨークに在住する18～80歳の健康な米国人女性103人のDNAを検査して、その結果によれば、

HPVの型が異なる部位から検出されることがあります。

◆性の満足度の把握状況

男女間の性交渉の際に、「相手が満足できたのか、それとも欲求不満が残っているのか？」という疑問に答えるため、力ナダのウォーターレーナーはあまり例のない研究結果を発表しました。

84組の男女のカップルが参入したこの研究では、男女のパートナーは、男女のパートナーが参考にした「性交渉での相手の満足度と自分の満足度」「性に関する自己の満足度」「性の満足度」が異なる場合、自分自身の満足度を無意識にカバーする道標ができます。

エビデンスのあるバイオペーパーは、二人の間に「性の満足度を装つて、お互い性の満足度をもだめで、二人の間に「性の満足度」が構築された

足跡

た。

◆性の脚本

性交渉の際に構築される「性の脚本」を構築する能力がでてきた。

◆性の満足度の把握状況

男女間の性交渉の際に、「相手が満足できたのか、それとも欲求不満が残っているのか？」とい

ういふとが示されました。

◆性の満足度の把握状況

男女間の性交渉の際に、「相手が満足できたのか、それとも欲求不満が残っているのか？」とい

